

# 栗生水辺公園管理業務委託 仕様書

## 1. 一般事項

- 1) 発生材の処理は、受託者が処理し現場に存置することなく作業の都度搬出し、適正に処分するものとする。ただし、あらかじめ担当職員の確認を得たものについてはこの限りではない。
- 2) 本仕様書に記載なき事項、また業務実施中に疑義が生じた場合は、その都度委託者と協議し指示に従うこと。
- 3) 現地確認の立会いは、双方協議して定めるものとする。
- 4) 契約期間中に受託者から管理内容の変更について申し出があった場合は、双方協議して定めるものとする。
- 5) 作業に当たっては、樹木・芝等の特性及び環境条件を勘案し、細心の注意をもって作業を行うこと。
- 6) 作業時間は、原則として8時30分から17時までとする。
- 7) 作業の実施に当たっては、第三者に危険のないように十分配慮して行うとともに、来客車両、施設及び樹木・芝等に損傷を与えないように行うこと。
- 8) 作業に使用する薬剤、肥料等は、季節・環境に適正なものを使用すること。
- 9) 本仕様書は業務の概要を示すものであって、本書に記載ない事項であっても委託者が管理上必要と認めた軽微な業務については、業務委託料の範囲に含むものとする。
- 10) 電気または水道の使用にあたっては、極力節電、節水に努めること。
- 11) やむを得ず業務の一部を第三者に委託又は請け負わせる場合は、あらかじめ書面により市担当職員の承諾を得なければならない。
- 12) 業務の全部又は部分払に係る業務の一部分を完了したときは、業務結果報告書(※1)を委託者に提出し、委託者が出来形を確認した後、業務委託料の支払いを請求することができる。委託者は、請求を受けてから30日以内に支払わなければならない。
- 13) この仕様書、特記事項にないものについては、協議の上定めるものとする。

※1 業務結果報告書とは、下記の書類をとりまとめたものをいう。

- ①作業前・作業後の写真
- ②作業中の写真
- ③業務履行報告書・作業月報等、履行状況・数量等がわかるもの
- ④その他、担当職員が必要と認めたもの

## ○樹木管理

### 2. 作業総本数

別添数量表参照

※実施日・日程については、植樹の成長を勘案し、委託者と細心の調整をはかること。

### 3. 作業内容

#### ア 剪 定

##### 1) 目 的

樹木の剪定は、樹木の健全な育成、美観の維持、形状の調整、及び病虫害の予防を目的とする

##### 2) 基本剪定

樹形の骨格作りを目的とするもので、樹種の特性、種々の制約条件に応じ、最も適切な選定方法により行うものとする。

##### 3) 整姿選定

込みすぎによる枯損木枝の発生防止や風害の予防などを目的とするもので、枝抜きなどを行うものとする。

##### 4) 中低木刈込み

刈込みはさみや刈込み機を用いて木冠などを刈込み、樹形を整えると同時に混み過ぎた枝や枯れ枝を除去し、通風、採光を確保するように行うものとする。

##### 5) 刈り込みの方法

- 樹形全体に凹凸のないように、一定の形又は一定の高さに刈り込む。
- 花木の刈り込みにあたっては、花芽分化時期に留意すること。
- ベンチなどの背後や広場・園路に沿って植栽されている中低木の刈り込み、剪定作業に際しては、鋭利な切断面が生じないように、切り戻しなどの適切な措置をとること。
- 枯損枝は、切除すること。

#### イ 病虫害防除

##### 1) 目 的

病虫害の発生は、樹木の健全な生育を妨げ、植栽の持つ機能の低下をもたらすほか、公園緑地等の利用者や周辺住民に対し不快感や虫刺されなどの被害を与える。また、場合によっては、周辺の庭木や農作物などにも被害が波及する恐れがある。このため、病虫害を早急に発見し、発生を認めたら速やかに防除することを目的とする。

##### 2) 剪定防除

- 病虫害の発生枝をすべて剪除する。
- 枝葉についている害虫が落下しないように注意深く切取る。落下してしまった場合は、清掃する
- 剪除した枝及び害虫は、速やかに処分する。
- 病害の剪除に使用した道具は、必ず消毒する。

## ウ 薬剤散布

- 農薬使用にあたっては、農薬取締法その他関係法令、及び農林水産省・環境省の「住宅地等における農薬使用について」（平成25年4月26日25消安第175号・環水大土発第1304261号）を遵守すること。
- 使用する農薬は、農薬取締法に基づいて登録された、当該防除対象の樹木などに適用のあるものを用い、ラベルに記載されている使用方法（使用回数、使用量、使用濃度等）、使用上の注意事項を守って使用する。また、現地混用は極力避け、混用を行う場合は「住宅地等における農薬使用について」に基づき十分注意する。
- 事前に周辺住民などに対して、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類について十分な周知を行う。特に農薬散布区域の近隣に学校、通学路などがある場合には、当該学校や子どもの保護者などへの周知を図り、散布の時間帯に最大限配慮すること。また、周辺に食用農作物が栽培されていないか確認し、必要に応じ農作物栽培者に対し連絡する。
- 散布時に、立て看板の表示などにより、散布区域内に歩行者などが入らないように最大限の配慮を行う。また、散布区域及び周辺の車両、家屋、ペットなどに農薬がかからないように十分注意するとともに、必要により養生する。
- 散布は噴霧器などを使い十分圧力をかけるとともに、風向きなどを考慮し、薬剤がむらなく均一に散布できるようにする。
- 降雨、風の強い日は散布を中止する。
- 落下した枝葉、害虫は清掃する。
- 使用機器及び薬品の保管については、事前及び事後を通じ十分注意し、作業終了後は法令に従い処理する。
- 空き瓶、残液の処理についても法令に従い処理する。

## エ 施肥

### 1) 目的

樹木の施肥は、樹木の美観の保持、抵抗力の促進、開花、結実などの目的とする。

### 2) 高木施肥

樹木の幹を中心にして、葉張りの外周線下に溝または穴を 15～30 c m掘り、施肥してから埋め戻す。

### 3) 中低木施肥

1 本立ち及び小規模な寄植えの場合は輪肥・壺肥を主体として、高木施肥に準ずる。

### 4) 寄植え施肥

地表散布とし、所定量をばら播きする。

### 5) 樹木用打込肥料

根元に打ち込んで使用する。

## ○芝管理

### 2. 作業面積及び作業回数

別添数量表参照

※実施日・日程については、芝の成長を勘案し、委託者と細心の調整をはかること。

### 3. 作業内容

#### ア 芝生管理

##### 1) 目 的

- 芝生面を平滑にし、美観を高める。
- 芝生の分けつを促進し、ターフを密生させる。
- 利用、修景目的に応じた芝生の刈込み高を維持する。
- 通風、日射を確保し、健全な育成を促す。
- 雑草を消滅させたり、雑草の進入を防ぐなど、除草効果を高める。

##### 2) 芝刈りの時期、回数等

芝刈りの時期、回数等は芝の育成状態、気象状況等の場所などにより異なるが、現場の状況により、適正な作業管理を行い、常に良好な芝生状態を保つこと。

##### 3) 芝刈りの方法

- 通常、芝刈りは原則機械刈り（面積に応じてロータリーモア、ハンドガイド式、フライモア、トラクターモア）とするが、極小面積あるいは機械使用が不可能な場合は補助的に手刈りで行うこと。
- 芝生内にある石、空缶等障害物はあらかじめ取り除くこと。
- 芝生内にある樹木、草花、施設等を損傷しないよう注意し、刈りむら、刈り残しのないよう均一に刈込むこと。
- 樹木の根際、柵類のまわりなど、機械刈りの不適當または不能の場所は手刈りとする。
- 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈り跡はきれいに清掃すること。

##### 4) 除草

- 除草は人力除草を基本とするが、状況により除草剤を使用する場合は、周辺環境に配慮し、安全性の高い薬剤を使用すること。人力除草は、特に地被植物や樹木周りを重点的に行い、雑草の結実前に効果的に行うこと。
- 雑草拔、除草フォークなどを用いて根より抜き取る。
- 芝生を傷めないように、丁寧に抜き取る。

##### 5) 目土

- 芝生面の凸凹を平坦にし、土壌の硬化を防ぎ、新芽の出やすい環境をつくるため、適期に目土を行うこと。
- 目土は雑草の種子や石等の混入していない水はけの良い土とし、肥料を混ぜて使用し、一度に施工する厚さは、5mm程度とすること。
- 目土掛けの作業は、必ず芝生を刈り込んだ後に行うこと。

#### 6) 施肥

- 施肥の目的は、芝生の生育の促進、病害虫に対する抵抗力、土壌の改良及び地力の維持などであり、芝生を美しく維持するため、適期に行うこと。
- むらのないように均一に散布する。
- 固形肥料を施す場合は、降雨直後などで葉面のぬれている時は行わない。

#### 7) 薬剤散布

- 動噴機の使用は雨天、強風等天候不順の日や日中高温時を避けて行う。
- 車道上に出て作業する場合は、警察の許可を得て作業に入ること。
- 薬剤散布は通行人に支障のない時間を選び原則的には早期に行い作業中は安全標識、安全ロープ、マイク等によって安全対策を講ずること。
- 薬剤散布の作業中はマスク、手袋等を着用し、安全に対して十分に気をつけること。
- 殺虫剤は、指示定量を樹木全体に万遍なく散布すること。
- 殺虫は、殺虫剤使用の他に枝葉を切り焼却することもあるので、指示を受けること。
- 殺虫後、地上に落ちた幼成虫は除去すること。

#### 4. 履行期限は令和7年11月28日とする。